

## クラウドファンディングでの支援募集【第3弾】を開始しました

昨年行った「【第2弾】歌舞伎や映画、大切な日本の文化を次世代に残す」と題したプロジェクトに引き続き、本年もインターネットを利用して松竹大谷図書館の平成 26 年度運営費等の支援募集を始めました。

昨年の第2弾のプロジェクトでは、243 名の方から目標金額を上回る 2,910,000 円もの支援金を寄せていただきました。ありがとうございました。おかげさまで、平成 24 年度に引き続き、平成 25 年も図書館事業の規模を縮小することなくサービスを提供し、滞りなく図書館事業を行えました。また、第2弾では初めての試みとして「所蔵資料のデジタル化」にも取り組み、映画雑誌『蒲田週報』の解体・修復・デジタル化を行うことができました。

そして、今年も「第3弾」として、支援募集のプロジェクトを、昨年と同様、クラウドファンディングサイト「READYFOR? (レディーフォー)」で実行します。

## プロジェクト名

## 『第3弾』日本文化の宝・歌舞伎や映画の記憶を未来につなぐ。』

■募集期間 平成 26 年 9 月 9 日(火)～10 月 29 日(水)【50 日間】

■目標金額 280万円 ・図書館の平成 26 年度運営資金:200万円  
・「芝居番付」5千枚のデジタル化費用:80万円

■募集金額設定 一口 3,000 円/5,000 円/10,000 円/30,000 円/50,000 円



明治 32 年 4 月歌舞伎座における、  
九代目市川團十郎一世一代の『勳進帳』の上演  
を宣伝するための芝居番付

目標金額のうち、200 万円は平成 26 年度の当館の運営資金です。これに加え、当館が所蔵する江戸末期から明治・大正時代の五千枚以上の「芝居番付」のデジタル化の費用 80 万円を合わせて、合計 280 万円としました。

芝居番付のように、傷みが進んだ古い資料は破損などの恐れがあるため、直接閲覧することが容易にできなくなってしまう。資料をデジタル化し、その画像を公開することで、来館しなくても多くの方に利用していただける利点を得られます。皆様のご支援の力をおかりして、デジタル化をすすめ、日本演劇の研究に役立てたいと思っています。

ご支援いただいた方には、支援金額に応じてリターン(お礼の品)をご用意しました。当プロジェクト限定オリジナル文庫本カバーや、所蔵する歌舞伎・映画台本のうちの 200 タイトルの中から支援者に作品を選んでいただき、その台本カバー(台本を保護するための手作りカバー)に支援者のお名前を載せる権利など、趣向を凝らしたリターンが設定されています。

ご理解ご賛同いただけるようでしたら、ご支援賜りますようお願い申し上げます。ご友人などお知り合いの方にも、広めていただければ、幸いです。

くわしくは、下記の URL または QR コードからプロジェクトページをご覧ください。

<https://readyfor.jp/projects/ootanitoshokan3>



【第3弾】日本文化の宝・歌舞伎や  
映画の記憶を未来につなぐ。

by 武藤祥子

観る事が叶わない過去の舞台、映像が失われた映画。貴重な記憶をとどめる台本やプログラムを保存する、演劇と映画の専門図書館・松竹大谷図書館の運営資金募集と、5千枚以上所蔵する芝居番付を「デジタル化」し、未来へつなぐプロジェクト。



「歌舞伎台本」文庫本カバー[左]

「映画台本」文庫本カバー[右]

※大きい方は本物の台本  
文庫本カバーは見本

※松竹大谷図書館は公益財団法人ですが、このプロジェクトで集める支援金に関しては、購入型のクラウドファンディングを利用するため寄付者への税制の優遇措置は受けられません。

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『ホットロード』	○	○	○		○
『新劇場版 頭文字D Legend1 覚醒』	○				
『リトル・フォレスト 夏・秋』	○	○	○		○
『THE NEXT GENERATION パトレイバー 第4章』	○		○		

■ 映画プログラム ■

『宇宙兄弟#0』	『イントゥ・ザ・ストーム』	『TOKYO TRIBE』
『フライト・ゲーム』	『百万円と苦虫女』	『プール』
『おっばいバレエ』	『レスラー』	『ブタがいた教室』
『闇の子供たち』	『BOX 袴田事件 命とは』	『春との旅』
『蟹工船』	『ばかもの』	『のんちゃんのみり』
『三本木農業高校、馬術部 盲目の馬と少女の実話』		『インスタント沼』
『ジュリエットからの手紙』		

■ 松竹系 8月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『恐怖時代』	○	○		
	『龍虎』	○	○		
	『信州川中島合戦 輝虎配膳』	○	○	○	○
	『たぬき』	○	○		
	『勢獅子』	○	○		
新橋演舞場	『OSK日本歌劇団レビュー夏のおどり』	○	○	○	○
	『ABKA I 2014』			○	
三越劇場（日本橋）	『螢』	○	○	○	
	『江戸みやげ 狐狸狐狸ばなし』	○	○		
青山劇場	『ガラスの仮面』	○		○	
南座（京都）	『紺屋 恋の道中みやげ』	○		○	○
	『はなのお六』	○			
松竹座（大阪）	『台風n Dreamer タイフーン・ドリーマー』				
香取市小見川市民センターいぶき館	『初代松本幸四郎生誕340年記念 九代目松本幸四郎特別公演』			○	
地方巡業	『ピーターズ レビュー』			○	
	『愛の讃歌 越路吹雪を慕って』				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

あうるすぽっと	8月	としまアート夏まつり『マクベス』プログラム
赤坂RED/THATER	7月	プロペラ犬×時速246億『ハッピーセット』プログラム
青山円形劇場	8月	KAKUTA『痕跡』プログラム
神奈川芸術劇場	7月	子供のためのシェイクスピア『ハムレット』プログラム
紀伊國屋ホール	7月	北区AKT STAGE『飛龍伝2014』プログラム、台本
	8月	岡部企画『知覧にて』プログラム、台本
国立劇場小劇場	7月	『雅楽以前』プログラム
国立劇場大劇場	7月	『親子で楽しむ歌舞伎教室』プログラム
国立文楽劇場	8月	『上方歌舞伎会』プログラム
座・高円寺1	8月	オフィス鹿『やまいぬ』プログラム
ザ・スズナリ	7月	とくお組『銀河ホテル たまプラーザ店』プログラム
	8月	オフィスコトナー『密会』プログラム
		ET×2『ゴドーを待ちながら』プログラム、台本
シアターオーブ	7月	『リング・イットオン』プログラム
シアタークリエ	7月	『マホロバ』プログラム
	8月	『タイトル・オブ・ショウ』プログラム
シアターグリーンBIG TREE THEATER	8月	劇団昴『BLUE』プログラム、台本
シアターコクーン	7月	『太陽2068』プログラム
シアタートラム	7月	トム・プロジェクト『風のセールスマン』プログラム
	8月	せたがやこどもプロジェクト『暗いところからやってくる』プログラム
新国立劇場中劇場	7月	シス・カンパニー『抜け目のない未亡人』プログラム
スクエア荏原	7月	『天翔ける盗賊 石川五右衛門』プログラム
すみだパークスタジオ倉	7月	猫のホテル『愛さずにいられない』プログラム
東京芸術劇場プレイハウス	7月	『カッコーの巣の上で』プログラム、台本
俳優座劇場	7月	劇団朋友『吾輩はウツである』プログラム、台本
博多座	8月	『レディ・ベス』プログラム、ポスター
本多劇場	7月	M&O playsプロデュース『鎌塚氏、振り下ろす』プログラム
	8月	加藤健一事務所『If I Were You こっちの身にもなってよ!』プログラム
ルネッサながと	7月	『第二回近松文楽』プログラム、床本

■ 演劇雑誌 ■

『あぜくら』2014年8月号	『シアターガイド』2014年10月号
『演劇界』2014年10月号	『ジ・アトレ』2014年3月,4月,7月,8月
『大向う』平成26年8月号,9月号	『児童・青少年演劇ジャーナル げき』13号
『Confettiかわら本』2014年8月号	『テアトロ』2014年9月号
『歌舞伎 研究と批評』52号	『DRAMAかながわ』70号
『上方芸能』2014年193号	『日本舞踊』66巻9月号
『神奈川芸術プレス』2014年8月-9月	『日本芸術文化振興会ニュース』平成26年9月号
『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』8号	『悲劇喜劇』2014年9月号
『国立演芸場公演ガイド』平成26年9月号	『文楽通信かわら版』24号
『J A T E T』No. 75	『ほうおう』2014年10月号
『SANZUI』Vol. 5	『邦楽の友』平成26年9月号
『SePT倶楽部 information』	『ラ・アルプ』2014年9月号
2014年3月,8月	

## ■ 映画雑誌 ■

『映画撮影』2014年202号  
『映画テレビ技術』2014年9月号  
『映画秘宝』2014年10月号  
『衛星劇場プログラムガイド』2014年9月号  
『エキブ・ド・シネマ』201号  
『NFCニューズレター』2014年8月-9月号  
『キネマ旬報』2014年9月上旬号, 9月下旬号  
『シナリオ』2014年10月号  
『シナリオ教室』2014年9月号  
『SCREEN』2014年10月号  
『ドラマ』2014年9月号  
『日経エンタテインメント!』2014年9月号  
『ピクトアップ』2014年10月号  
『FLIX』2014年10月号  
『文化通信ジャーナル』2014年9月号

資料をご寄贈くださった方々 (敬称略・順不同/2014年6月~2014年7月)

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、おもだか会、日本映画テレビ技術協会、株式会社日本舞踊社、博多座、文学座、国立劇場、関西・歌舞伎を愛する会、一般社団法人日本民間放送連盟、帝国劇場、劇団四季、明治座、キネマ旬報社、真下花枝、演劇出版社、ディアゴスティーニ・ジャパン、前進座、梶本秀文、(有)アゴラ企画、銀座 博品館劇場、東京大学出版会、丸善出版株式会社、公益社団法人日本照明家協会、フィルムセンター、株式会社カモミール社テアトロ編集部、伝統文化新聞、ロングランプランニング株式会社、劇団民藝、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、シアタークリエ、パルコ劇場、常磐津節保存会、(有)オフィス・ドラゴン、音楽座ミュージカル、土田牧子、日本映画撮影監督協会、愛知芸術文化センター、(株)近代映画社、劇団銅鑼、こまつ座、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター、東宝株式会社、銀座百店会、東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、シナリオ・センター、邦楽の友社、無声映画鑑賞会、梅田芸術劇場、加藤健一事務所、国立歴史民俗博物館、関西常磐津協会、俳優座劇場、劇団青年座、若林さだ吉、日本アカデミー賞協会、日本大学芸術学部演劇学科、新鷹会、花組芝居、社団法人日本演劇協会、岩波ホール、日本近代文学館、江戸糸あやつり人形座、日本劇作家協会、鈴木彩、日本映画テレビプロデューサー協会、秋山勝彦、四季株式会社、劇団俳優座、東宝芸能、映画論叢、日本演劇興行協会、流山児★事務所、一般社団法人日本映画製作者連盟、株式会社新潮社、人形劇団プーク、株式会社ホリプロ、大佛次郎記念館、一般社団法人長唄協会、シアターオーブ、早稲田大学演劇博物館

どうもありがとうございました

## ●松竹大谷図書館の休館中の作業ご報告●



段ボールの中身

8月2日より17日まで夏期特別整理休館させていただきましたが、「特別整理」とあるように、開館中はできない整理作業を行っています。今回の休館では、館内作業が多い当館としてはめずらしく、館外に出張して作業を行いました。

場所は、当館から30分ばかり離れた場所にある、新木場の松竹株式会社のフィルム倉庫。こちらに、建物の老朽化のため惜しまれつつも閉館した浅草の中映劇場から寄贈されたポスターがあります。その数、段ボール87箱分。このポスターの中身を確認し、仕分ける作業を行いました。休館中とはいえ、図書館を無人にはできないので、基本的に交代で倉庫へ出張し、作業を行いました。作業は8月の最終週の、木曜日の休館日にも行いました。かなり体力勝負の作業で、一週間ずっと倉庫に通って作業したスタッフSは、体重が三キロ減ったそうです…。その甲斐があつてか、全ての段ボールの仕分けを8月中旬に終わることができました！以上、ひと夏の作業のご報告でした。



こちらが三キロ減ったスタッフSの腕です

## 第46回所蔵資料展示

# 『機動戦士ガンダム』展

展示期間:2014年8月18日～9月24日/於 閲覧室

『機動戦士ガンダム』は、1979年にテレビアニメとして放送開始。当初の予定よりも短めの43話での最終回を迎えましたが、そのころを境に、若者たちからの絶大な支持を受けはじめ、映画化が決定します。1981年2月22日には、ガンダムを愛するファンの方を集結させるイベント「アニメ新世紀宣言大会」が開催され、主催者側の想定をはるかに超える1万5千人もの人々が、東京・新宿駅東口前広場に集まりました。これがガンダムブームを社会現象へと押し上げる原動力になりました。

壮大な宇宙で繰り広げられるモビルスーツなどでの戦闘シーンや、弱さを抱えながらも成長していく魅力的なキャラクターの数々、深く作りこまれた奥行きのある物語……。その魅力は尽きません。

ガンダム誕生35周年を迎える今年。今でも多くの人の心を魅了し続けているガンダムの、映画三部作にスポットをあてます。プレス資料や、台本、スチール、約30冊にも及ぶスクラップなど、当館の所蔵資料からガンダムの世界に迫ります。

### ◆映画作品情報◆

『機動戦士ガンダム』(1981年)

『機動戦士ガンダムII 哀・戦士編』(1981年)

『機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙(そら)編』(1982年)

【スタッフ】富野喜幸 総監督/ 矢立肇・富野喜幸 原作/ 星山博之・荒木芳久・山本優・松崎健一 脚本/ 安彦良和 キャラクターデザイン/ 大河原邦男 メカニカルデザイン

【声の出演】アムロ・レイ(古谷徹)/ ブライト・ノア(鈴置洋孝)/ カイ・シデン(古川登志夫)/ ミライ・ヤシマ(白石冬美)/ セイラ・マス(井上遥)/ シャア・アズナブル(池田秀一)



閲覧室内での『機動戦士ガンダム』展の様子

### ◆展示資料作品一覧◆(作品ごと)

『機動戦士ガンダム』

●プレスシート

●プログラム

●台本(準備稿/録音台本)

●カラースチール写真=①ジオン公国ザビ家の末っ子ガルマ・ザビ ②ザビ家の長兄ギレン・ザビの演説放送を見るランバ・ラルとハモン ③シャア・アズナブルとセイラ・マス 生き別れた兄妹の再会 ④アムロのガンダムと“赤い彗星”と異名を持つシャアのザク 激しい戦いが始まる。

●写真=1981年2月22日、劇場版公開に先駆けて開催されたイベント「アニメ新世紀宣言大会」の様子。新宿の駅前広場に1万5千人の群衆が駆けつけた。

●2・22 アニメ新世紀宣言(複製)/1981年2月22日のイベントで、ガンダムを愛するファンの前で読み上げられた宣言。この宣言書はイベント参加者にも配布された。

●宣伝資料=少年時代のアムロ・レイが描かれた年賀状(画:安彦良和)。

『機動戦士ガンダムII 哀・戦士編』

●プログラム

●録音台本

●生コマ・フィルムしおり(3種類)=前売り券のオマケや、試写会プレゼント、劇場での入場者プレゼント用として作られた。第1作の劇場用映画フィルムをラミネート加工して作成されている。①シャア×ガルマ ②ガンダム ③アムロ

●グループ鑑賞券(複製・2種類)①アムロ・レイ / マチルダ・アジャン×レビル將軍 / クラウレ・ハモン×ランバ・ラル / シャア・アズナブル×セイラ・マス②RX-78 ガンダム / 黒・3連星 MS-09ドム / 赤・彗星MSM-07sズゴック / MSM-03 ゴック / 青・巨星MS-07 グフ

『機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙編』

●プレスシート=完結編のシャアとアムロとの対決。印象深いクライマックスの場面。(画:大河原邦男)

●プログラム

●録音台本

●生コマ・フィルムしおり=さまざまなシーンが組み合わせられている

●ガンダム共通一次アニメ模擬試験(複製)=映画化第3弾を記念しての企画。大阪・梅田松竹に集まったファンが、一斉にテストを受け、ストーリーや登場メカなどの知識を競い合った

●図書『ロマンアルバム・エクストラ 50 機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙編』(徳間書店発行)/『ガンダム』三部作それぞれで刊行された。その中から、完結編の『めぐりあい宇宙編』を展示。

●図書『機動戦士ガンダム台本全記録集』(株式会社日本サンライズ発行)/予約者にものみ販売された限定本。1話～43話まで完全収録されている。

●図書『機動戦士ガンダム記録全集 1』(株式会社日本サンライズ発行)/予約者にものみ販売された限定本。全5冊。その中から第1巻を展示。

## ■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

**公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。**

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2014（平成26）年8月にご支援いただきました

### 法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

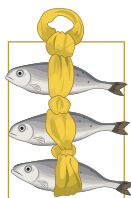
### ■ お知らせ ■

▼引き続き、当館で使用している図書管理システムを新システムへ移行中につき、資料の新規登録が出来ない状態になっております。そのため今月の資料案内は「新着資料案内」のみとさせていただきます。

### ■ 編集後記 ■

▼いよいよ、クラウドファンディング「Readyfor?」でのプロジェクトが、9月9日より始まりました。今回は平成26年度の運営資金の募集とともに、芝居番付のデジタル化に取り組みます。昨年、第2弾のプロジェクトでは、雑誌「蒲田週報」のデジタル化に取り組み、デジタル画像での閲覧を利用者の方に予約制で提供して、必要な記事を探していただくなど、少しずつ利用の方法を確立させています。芝居番付もデジタル化され、さらにウェブでの公開を実現させ、広く利用されることを願ってやみません。プロジェクト終了日は10月29日ですので、11月のニューズレターで、良いご報告ができますよう、スタッフ一同がんばります！

▼「Readyfor?」で6月2日より、支援者を募集していた「ドキュメンタリー映画『Tsukiji Wonderland(仮題)』製作」プロジェクトが9月1日に募集を終了し、無事プロジェクトが達成されました。製作中の映画は2016年に公開される予定とのこと。あの活気ある築地の姿が、どのように映像に留められているか、楽しみです。移転してしまうのが寂しくもありますけれど…。(あ)



### ● 利用案内 ●

#### 開館時間

平日午前10時～午後5時

#### 休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間

※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびウェブサイトに掲示します。

入館料 無料  
閲覧 館内閲覧のみ

### ● 交通案内 ●

東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分  
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分